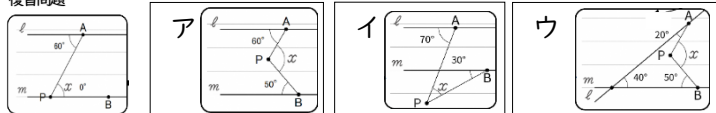
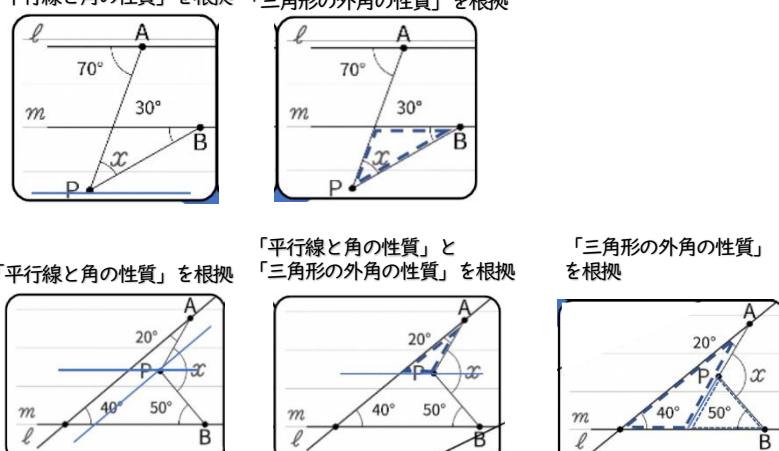
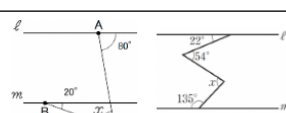


- (1) ねらい 平行線と折れ線の角の大きさの求め方を考える活動を通して、これまでに学習した図形の性質が使えるように補助線を書き加えればよいことに気づき、角の大きさの求め方を説明することができる。
- (2) 評価規準 補助線を書き加えたり、三角形に着目したりして、これまでに学習した図形の性質を基に、角の大きさの求め方を説明することができる。(思考・判断・表現)
- (3) 学習展開 (7/15)

過程	学習活動	教師の指導・援助(留意点)
導入	<p>1 これまでの学習の復習と本時の学習内容を確認し、課題意識をもつ。</p> <p>復習問題</p>  <p>アの問題は、右図のような補助線をかき加えることで、「平行線と角の性質」を根拠にして、求められることを確認する。</p> <p>イの問題は、右図のような補助線をかき加えることで、「平行線と角の性質」と「三角形の外角の性質」を根拠にして、求められることを確認する。</p> <p>2 本時の課題をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書を活用し、提示する問題が、これまで学習した問題の一部の条件を変えていることに気付くことができるようにする。 <p>【ICT活用の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書のデジタルシミュレーションを利用し、アの問題は、復習問題の点Pを動かした問題であることを捉える。また、イの問題も同様に、点Pを直線mの下に動かした問題であることを捉える。ウの問題は、点Pではなく、直線ℓを動かした問題であることを捉える。
展開	<p>補助線を書き加えたり、三角形に着目したりして、イとウの$\angle x$の大きさの求め方を明らかにしよう。</p> <p>3 個人追究する。</p> <p>「平行線と角の性質」を根拠 「平行線と角の性質」と「三角形の外角の性質」を根拠</p>  <p>「平行線と角の性質」を根拠 「平行線と角の性質」と「三角形の外角の性質」を根拠 「三角形の外角の性質」を根拠</p> <p>4 全体で話し合い、課題を解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「平行線と角の性質」と「三角形の外角の性質」が根拠であることに気付く。 「平行線と角の性質」や「三角形の外角の性質」が使えるように、補助線を書き加えればよいことに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が、様々な補助線を書き加えることができるように、協働学習支援ツールを用いて、本時の問題を配付する。 机間指導をしながら、「これまでに明らかにした図形の性質」のどれを根拠にしたのかを明らかにするよう助言する。 <p>【ICT活用の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題を解決することができた生徒は、デジタル教科書のデジタルシミュレーションを使って、点Pと直線ℓは変更せず、直線mの位置を変えたり、ウの問題の点Pを移動させたりして、自分で問題を作って解決できるようにする。
終末	<p>5 まとめる</p> <p>「平行線と角の性質」と「三角形の外角の性質」を根拠にし、その性質が使えるように補助線を書き加えれば、求めたい角度を明らかにすることができる。</p> <p>6 学習を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> 直線ℓ, mは変えずに、点Pの位置を変えた問題に取り組む。 	<p>【ICT活用の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書のデジタルシミュレーションを使って、自作問題(ある条件を変えた問題)の求めたい角($\angle x$の大きさ)を自分で確認できるようにする。